

佳作

スクーバ・ダイビングから

宮城県仙台市立東仙台中学校

1年 合瀬 壮介

私は、昨年(2019年)の11月に、スクーバ・ダイビングのライセンスを取得しました。ダイビングスーツを着て、器材をつけ海に潜ることをスクーバ・ダイビングと言います。

私がなぜスクーバ・ダイビングのライセンスを取ったかという点、父親が、プールに行っても泳ぐよりも潜る方が得意な私の様子を見て、「スクーバ・ダイビングを習って、沖縄のきれいな海でも潜ってみないか。」と誘ってくれたからです。私は、父の話しっぷりから、簡単にできそうな気がしたので、すぐにやることにしました。

しかし、実際はスクーバ・ダイビングのライセンスを取るのには、そんなに簡単なものではありませんでした。しかも、冬に取ろうと決めたので、海の水はとて冷たく、死んでしまうかと思うほど寒かったです。

まずは、ライセンスを取る前に、使用する器材の名前や注意事項、水中でのサインなどを覚え、筆記試験に合格しなければいけません。パンフレットやインターネットなどで繰り返し勉強して、父と二人で筆記試験に合格することができました。

次は、いよいよ潜る練習です。最初は、仙台うみの杜水族館の大きな水槽で練習しました。驚いたことに、一般のお客さんが普通に見ている前で潜るのです。スクーバスーツはかなり重く、あまり着やすくないので、チャックを閉めるまで一苦勞でした。空気が入っているタンクも非常に重く、他の人の手を借りないと背負うことができませんでした。ようやく準備を終え、インストラクターの方に助けてもらいながら水槽の中に入りました。インストラクターの方が助けてくれるのですが、怖くてなかなか潜ることができずに30分くらい動けなかったのですが、一緒に参加していた人が、とても楽しそうに泳いでいる姿が見えたので、自分も勇気を出してやっと潜ることができました。すると、いつも見ている外側からの世界とはまったく違い、360度見渡す限り魚が泳いでおり、その初めて見る景色にとて感動しました。

2回目は、女川の海です。水槽とはまったく違い、台風が近づいていたこともあり海の透明度は最悪でした。海のあまりの冷たさに頭が痛くなりましたが、浅めの場所で講習を続けました。あまりきれいな海の景色は見られませんでした。が大変だった分、自然の海を体感でき、良い経験になりました。

3回目の講習は、仙台うみの杜水族館でのダイビングでした。前回の女川の海での講習の成果もあり、以前より安定して泳ぐことができました。そして、水槽の底にもスムーズに潜ることができました。そのほかにも、前よりも成長したことがたくさんあり、何よりも自信を持って潜ることができるようになりました。

私は、このライセンスを取得して一つ大きな目標を見つけました。それは、少しでも海のごみ問題に役立ちたいということです。

3回目の講習の後、SDGsのごみ問題についての映像を見ながら、自分にできることはないか、と考えていました。今すぐには難しいかもしれませんが、もう少し成長すれば、海に潜りごみを拾うボランティア活動に参加できるのではないかと。さらに、経験を積みながら「ダイビングインストラクター」などもやってみたいと、などと考えていました。

スクーバ・ダイビングのライセンスを取得し数カ月がたったころ、まずは身近な家庭ごみの分別を積極的にしてみよう、と考えました。今までは、ごみ箱に入れるだけで、母が分別したごみ袋をごみ置き場まで運んでいただけでした。最近、家の中でもごみの分別をし、ごみを出す日を覚えて、自分が出すようになりました。私の住んでいるところは、月曜日が「缶ビン」、水・土曜日が「燃えるごみ」です。なかなか覚えられなくて、母にいつも確認していたので、カレンダーに書くようにしました。

ごみ問題については、大リーグの大谷翔平選手の影響も受けています。大谷選手は、野球のプレー以外でも、相手に対しての敬意を忘れずにバットを渡したり、試合の後にごみを拾ったりしています。

私の夢は、将来人のためになることをしていくことです。今回、大谷選手のごみ拾いをするカッコいい生き方も重なり、スクーバ・ダイビングの資格を海ごみ問題につなげていこうと決意しました。